

J-クレジット制度における方法論の追加及び修正案についてのパブリックコメント募集結果

平成26年 1月

番号	該当方法論	意見内容	コメントに対する考え方
1	AG-003茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料の投入 3.プロジェクト実施後排出量の算定 <主要排出活動>p3	AFpj、FNpjの定義の内、それぞれ石灰窒素にかかわる平均施肥量および窒素量については、石灰窒素と同時に施肥(併用)された窒素含有化学肥料又は有機肥料の施肥量および当該肥料中の窒素含有量も併せて算入すべき。 (理由) 方法論算定の根拠として挙げられている徳田らの試験では、ベースライン肥料中の窒素施肥量の一部を石灰窒素で置き換えたプロジェクト実施後の施肥全体に由来する亜酸化窒素排出量とベースライン肥料のみを全量施肥した場合に排出される亜酸化窒素量とを比較し、36～61%が削減されたとしている。他の茶園試験例でも同様にベースライン肥料単独で排出される亜酸化窒素量に対し、ベースライン肥料の一部を石灰窒素に置き換えた施肥全体との比較で削減できる割合が報告されており、プロジェクト実施後の窒素量には石灰窒素で置き換わっていない残余のベースライン施肥分の窒素量も併せて算入することが妥当と考える。	ご指摘の内容については、方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」にあるとおり算入対象となります。 なお、石灰窒素を含む複合肥料の施肥について、より分かりやすい表現とします。